



大学の研究室で行われるディスカッションに FM システムを使っている小関さんという方がいます。小関さんに FM システムについてインタビューしてみました。



## 小関 雄太さん

現在、大学院1年生。化学を専攻し、研究テーマに沿って、日々多くの実験をこなしている。趣味はスポーツで体を動かすことが好き。補聴器はリオン社のHB-G4Pを使用中。

### 質問 ① : FM システムを使うようになったきっかけは何ですか？

私が大学3年生ときまでは FM システムを使っていませんでした。大学4年生で研究室に配属されたとき、他の学生と同じように難聴の私を受け入れても大丈夫なのか、という話になりました。研究室では毎週、研究テーマやスケジュールについてみんなでディスカッションをするのですが、特に話し手がたくさんいると聞き取りが難しく、困っていました。そこで大学側と「どんなサポートが必要か?」、「どんな方法があるのか?」など話し合った結果、FM システムを試してみることにになりました。色々なメーカーの FM システムを試聴した結果、フォナックの FM システムを使うことになりました。私が通っている大学には障害を持つ学生をサポートする「障害学生支援室」という機関があります。今、使っている FM システムは障害学生支援室が試験的に購入したものです。

### 質問 ② : 小関さんが使用している FM システムを教えてください。

送信機は4台のインスパイロ、6台のダイナマイク、受信機は MLxi を使っています。



### 質問 ③ : フォナックの FM システムを選んだ理由を教えてください。

私の研究室には約15名の方が在籍しています。インスパイロとダイナマイクは最大10台まで同時に使うことができ※、研究室のディスカッションに使うことができるというのがフォナックの FM システムを採用した大きな理由です。

※ マルチ・トーカー・ネットワーク (MTN) 機能

インスパイロとダイナマイクの間でネットワークを構築し、1つの FM チャンネルで最大10台まで同時に使用することができる機能。複数の話し手がいるチーム・ティーチングや会議などに便利です。

#### 質問④：どんなシーンで FM システムを使っていますか？

主に研究室でのディスカッションで使っています。発言する先生や先輩の声をしっかりと聞くことができ、本当に助かっています。また教員の先生と1対1で打ち合わせをするときや大学の講義でも使っています。



#### 質問⑤：初めて FM システムを使ったとき、どう思いましたか？

私は FM システムの音を初めて聞いたとき、びっくりしました。聞こえる音がすごく自然で、正直すごいなと思いました。

私は FM システムを使う前は「補聴器を使うこと」と「話し手の口の動きを読むこと」の二つの方法で言葉を聞き取っていました。大学の講義では一番前の席に座って、先生の口の動きを集中して観察していました。でも FM システムを使うと口の動きが見える範囲で後ろの席に座っても聞き取ることができるようになったので便利だと思いました。

#### 質問⑥：FM システムを使う、使わないでどんな違いがありますか？

研究室のディスカッションで常に大きな声で話す人はほとんどいません。先にも述べましたが、私が話を聞くと、話し手の口の動きを読むのですが、1対1では何とかなるものの、大勢の人がいる環境では聞き取りに限界があります。話していることの大まかな内容は把握できたとしても、細かいところは分からないのです。でも FM システムがあれば一人ひとりの話を聞き取ることができ、内容をきちんと理解しながら積極的にディスカッションに参加できます。もし FM システムがなかったらディスカッションに参加することを諦めていたと思います。

#### 質問⑦：FM システムを使う上で難しいところは？

FM システムをまったく知らない人に使ってもらうときです。私がい方を簡単に説明するのですが、FM システムは単純に送信機を装着すればいいという訳ではありません。話し手に正しく装着して使ってもらう必要があります。話し手の方が正しく使うことに意識を持ってもらえると本当に助かります。

#### 質問⑧：小関さんにとって FM システムとは？

研究室で先生や先輩たちが話していることをきちんと理解することができ、本当に助かっています。私の大学生活では、手放せない存在です。